

令和3年度（通年） 「地域づくりの理論と実践 B」 シラバス

授業科目名 (英文表記)	地域づくりの理論と実践 B (Strategic regional/community management B)		
単位数	2 (学部生のみ)【通年】	授業形態	講義、実習
担当教員	藤田 武弘		
実施場所	秋津野ガルテン(和歌山県田辺市上秋津 4558-8)		
実施日・時間	下記「授業計画」のとおり	区 分	学部開放科目
<p>【講義概要】 少子高齢化が進展する日本では、都市と農村との格差が拡大し、農村では“限界集落”が増加するなどの問題が起こっている。しかし、その一方で食の土台となる第一次産業の営みや農山漁村での暮らしに対する都市住民の関心も高まっている。そして、農村においても「地域資源の活用」「農工商連携」「都市農村交流」など様々な取り組みが進められている。なかでも、都市農村交流における「鏡効果」の存在は、農山村再生の手法としても大いに注目を集めている。近年、総務省がふるさとの地域づくりを支える多様な担い手として提起した「関係人口(長期的な定住人口でも短期的な流動人口でもなく、当該地域や住民と多様に関わる者)」づくりは、まさにこのような交流を土台に拡がりをみせるものと考えられる。本講座は、農業・農村の現状に対する「当事者意識」に裏付けられた深い共感と問題関心を有し、且つ新たな地域づくりの担い手として注目される「関係人口」を創出する上でのコーディネーターとしての役割を果たしうるホスピタリティ豊かな地域づくり人材の育成を目的として開講する。</p> <p>【授業計画 (通年) <前期期間:視座①②③、後期期間:視座④⑤> (土日開講) (土曜2 講義+日曜1 講義)】</p> <p><視座①: 地域づくりの理論>5/15-16 (土日)</p> <p>【01】 地域づくりの経済学～地域内再投資力論から学ぶ～ (岡田知弘: 京都橋大学) 13:00～14:30 【02】 地域づくりと合意形成～「秋津野塾」の経験に学ぶ～ (玉井常貴: 秋津野) 15:00～16:30 【03】 地域づくりとコミュニティビジネス (木村則夫: 秋津野) 9:00～10:30</p> <p><視座②: 地域づくりとマネジメント> 7/10-11 (土日)</p> <p>【04】 地域経営の考え方 (八島雄士: 和歌山大学) 13:00～14:30 【05】 地域運営組織の実態と課題 (有田昭一郎: 鳥根県中山間地域研究センター) 15:00～16:30 【06】 地域経営と6次産業化 (原拓生: 綾きてら) 9:00～10:30</p> <p><視座③: 地域づくりと行政・農協の役割> 9・18-19 (土日)</p> <p>【07】 地域農業と自治体農政の役割 (安藤光義: 東京大学) 13:00～14:30 【08】 協同組合の現代的価値 (岸上光克: 和歌山大学) 15:00～16:30 【09】 農協青年部活動が目指すもの (芝翼: JA 和歌山県青年部) 9:00～10:30</p> <p><視座④: 地域づくりと交流・連携> 10/2-3 (土日)</p> <p>【10】 都市農村交流の新たな段階 (藤田武弘: 和歌山大学) 13:00～14:30 【11】 新たな田園回帰と農村移住 (阪井加寿子: 和歌山大学) 15:00～16:30 【12】 都市農村交流を支える女性たち (植田淳子: 和歌山大学) 9:00～10:30</p> <p><視座⑤: 地域づくりと担い手育成> 11/13-14 (土日)</p> <p>【13】 農業後継者の現状と課題 (柳村俊介: 摂南大学) 13:00～14:30 【14】 地域サポート人材の役割と課題 (岡司直也: 法政大学) 15:00～16:30 【15】 農業労働力の確保と地域づくり (木村三三男: 鳥取県日野郡公設塾) 9:00～10:30</p> <p>【到達目標】 本学では「域学連携」の観点に基づく地域での多様な実践型教育・研究が行われている。本講義の受講者が、それら地域での実践的な学びを自ら深めていくことを期待したい。なお、本講義は江頭ホスピタリティ事業振興財団の「寄付講義」として開講されることから、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響等の教育効果の検証を行う予定である。</p> <p>【教科書・教材】 毎回レジュメ・資料を配布する。</p> <p>【参考書】 ○岡田知弘『地域づくりの経済学入門—地域内再投資力論 (増補改訂版)』自治体研究社、2020年。 ○橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編『都市と農村—交流から協働へ—』日本経済評論社、2011年。 ○小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波新書、2015年。 ○藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房、2018年。</p> <p>【授業時間外学習】 本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する課題に調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。</p> <p>【履修上の注意・メッセージ】 地域の再生は、一朝一夕に叶うものではない。常に「現場 (実態社会) が先生」であるという謙虚さと熱意をもって、社会人などの多世代の人々とともに地域の悩みを共有しながら根気強く問題解決に取り組もうとする受講生を歓迎する。なお、週末の土曜日開催 (土曜日2 講/日曜日1 講とまとめ) というスタイルの講義以外に、オプションに関連するフィールドワーク (現地視察や農家民泊・農作業研修など) が提供されるので、これにも積極的に参加してほしい。</p> <p>※新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮して、遠隔講義 (オンライン授業など) を導入する可能性があります。又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。</p>			

